

V P - H e a d K I T

組立説明書

平成10年12月25日 第4版



Tri

TRIODE SUPPLY JAPAN

トライオード サプライ ジャパン

〒343-0026 埼玉県越谷市北越谷1-23-1

組立の前に全ての部品がそろっているかチェック表で確認してください
もし足りない部品がある場合やご質問等は当社ユーザーサポート係迄下記時間内にお電話ください

TEL: 0489-73-1743 FAX: 0489-78-7309

E-MAIL: triode@post.officenet.co.jp

ユーザーサポート受付時間 月曜～金曜 電話AM9:30～PM6:00 FAX 24時間受付
土曜 電話AM9:30～PM1:00 FAX 24時間受付

今回は当社から発売されましたVP-Head キットをご購入いただき、有り難うございました

組立前にパーツリスト及び組立マニュアルと実体配線図をよくご参照下さい。

ご注意（感電について）

このアンプキットは高電圧（直流400V）を使用しているため、誤配線は極力避けなければなりません。配線時は必ず誤配線がないかどうか実体配線図と回路図で確認してください。またアンプに1度電気を入れて切った後は、コンデンサーに電気（約400V）が貯まっています、電気が抜けるのに3分以上かかるので、放電を待ってから内部に触れて下さい（その場合必ずテスターで電圧をチェックすること）。また組立途中で電気を入れた場合、配線がつながっていないと、全く放電しない状態もあります。直流400Vに触れると、指の先が少し焦げますので十分ご注意下さい。またKIT完成後、真空管が高温になるため触れると火傷をしますので十分ご注意下さい。特にお子様の手の届かない場所に設置されるようお願いいたします。

必要工具（お持ちでない方は当社にご相談下さい）

- 1, 30W-60W程度のハンダごて
- 2, ハンダ（ヤニ入りハンダ）※ペーストは決して使わぬ事（将来腐食します）
- 3, テスター（簡単なもの）
- 4, 六角レンチ（アレンキー）の1.5mm（ボリュームノブ用）
- 5, 接着剤少々 LEDをフロントパネルに取り付けるため
- 6, プラスドライバー/マイナスドライバー/ニッパー/ラジオペンチ/ワイヤーストリッパー
スパナ等

その他の注意事項

電解コンデンサーには+-の極性がありますのでよく確認して取り付けて下さい。極性を間違えると破裂することがあります。

保証について

本キットは厳選された部品で構成されておりますが、部品の不良が出た場合速やかに交換させていただきます。その他、ミス配線による部品の損傷や故障は保証の対象外になりますのでご了承ください。また高電圧を使用していることと、真空管が高温になるため取り扱いには十分ご注意ください。特に小さいお子様が居る家庭ではなるべく手の届かない場所に設置されるようお願いいたします。これらの事故による補償はできませんのでご注意ください。

組み上げた後、自信がない方には完成検査制度があります。
完成検査代¥10,000で作りに上げたアンプを検査し保証書を発行いたします。完成品と同じく1年間の保証を致します。
どうぞ完成検査制度をご利用下さい。
送料は往復ともお客様負担となります。

※また組み上げた後に音が出無いなどのトラブルの修理は¥3000+往復送料が必要となります。

オプションパーツ価格表

ボンネットカバー	1個	¥6,000
----------	----	--------

補修部品価格表

1, 6BQ5	1本	¥2,800
2, 12AX7A（中国製）製品に同梱のもの	1本	¥1,800
3, 12AX7A（GE製）USA	1本	¥2,800
4, 抵抗	2W級 ¥150 5W級 ¥300	

1, 部品チェック

別紙を参照しながら全部品をチェックする。一部の部品が緑のメインシャーシの中に入っていますのでプラスネジを4箇所外して取り出します。外したプラスネジは最後に使用します。

抵抗器はカラーコード印刷のため下記の表を参考に予め分けて下さい

※出来ればテスターで計測した方が確実です

(なお右端の色は違う色でも差し支えありません)

R 1, 2	1 K	茶、黒、黒、茶、茶
R 3, 4	1 0 0 K	茶、黒、黒、橙、緑
R 5, 6	1 2 K	茶、赤、黒、赤、茶
R 7, 8, 1 3	1 0 K	茶、黒、黒、赤、緑
R 9, 1 0	4 7 0 K	茶、紫、黒、橙、茶
R 1 1, 1 2	2 7 0	赤、紫、黒、黒、茶
R 1 4	2 2 0 K	赤、赤、黄、金
R 1 5, 1 6	2 5 0	白色のセメント抵抗
R 1 7, 1 8	1 0 0	茶、黒、黒、黒、緑
R 1 9	2 2 0	赤、赤、黒、黒、茶

2, コンデンサー区分け

C 1, 2	黒い円筒形で両端が黄色でリード線がでている
C 3, 4	銀色透明で4 7 Kと印刷されている
C 7, 8, 9, 1 0	ブルー色
C 5, 6	銀色透明で1 0 1 Kと印刷されている

足りない場合は

TEL : 0 4 8 9 - 7 8 - 7 1 0 9

FAX : 0 4 8 9 - 7 8 - 7 3 0 9

トライオード サプライ ジャパンまで

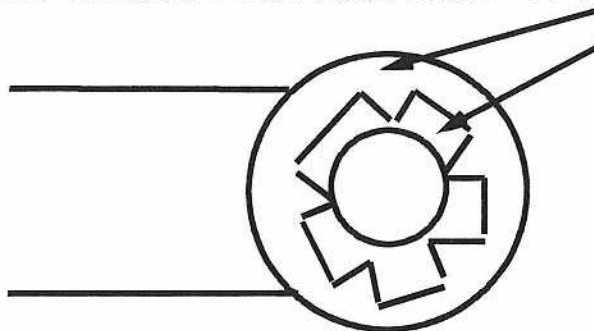
- 3, プリント基板の組立
別紙を見ながらプリント基板に
各部品を取り付ける。



基板組立の前に

基板のハトメ部分のハンダ付け方法

基板上の穴にはハトメが数カ所挿入されておりますが、この部分のハンダ不良による動作不良が発生しております。この為、拡大図のようにハンダを充分流すように処理を御願いたします。



ハトメの部分のハンダ付けを外側まで充分流さないと、このハトメ部分とパターンとの導通不良を起こしますので充分ハンダを外側まで流して下さい。

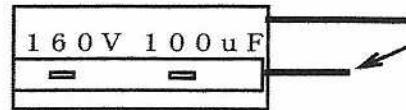
中心の穴は埋まってもかまいません。

基板パターン拡大図

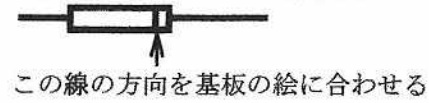
A：プリント基板の印刷面側に部品を取り付ける。（注：真空管ソケットとは反対側）

- 1, 予め容量を分類した抵抗類
- 2, 電解コンデンサー

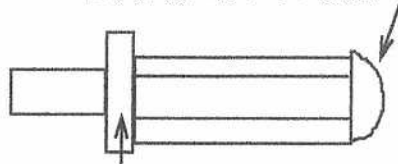
+-を間違えると爆発することがあります。2本の足のうち、短い足がマイナスです。



- 3, その他のコンデンサー 特に方向性はありません
- 4, ヒューズホルダー ※方向を間違えぬように 終わったらヒューズを差し込む
- 5, ダイオード類 ※方向を間違えぬように

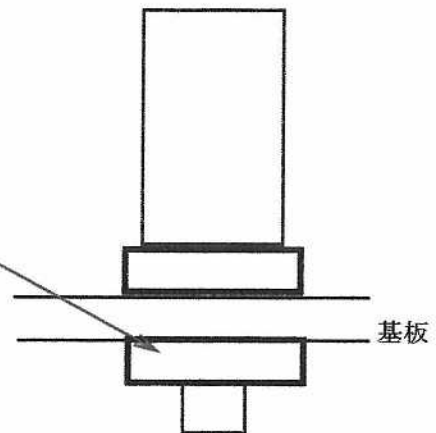
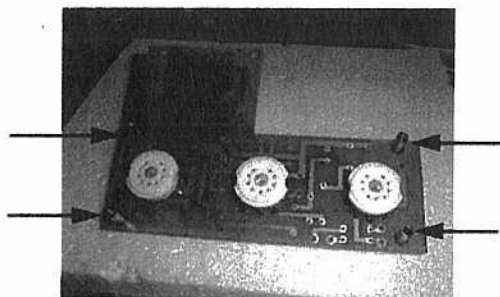


B：基板のソケット側にSCREWNUT-M3をまず4本取り付けます。
まず片側に付いている黒いネジを一旦外す。

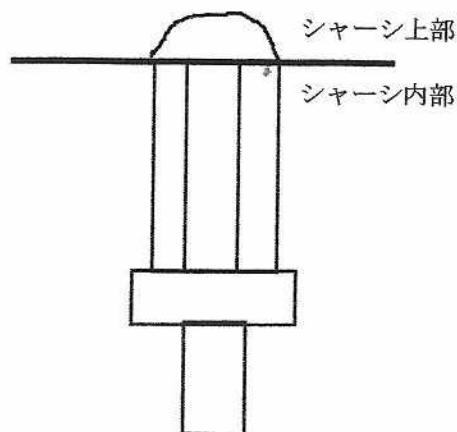
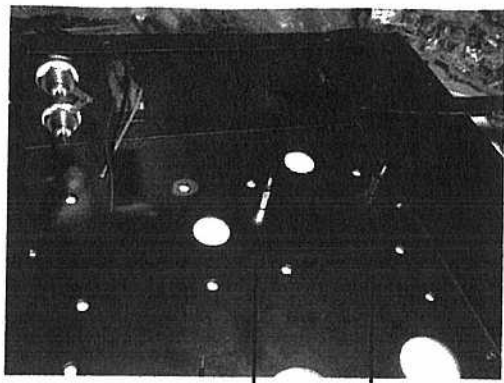


このナットは外さずにそのままスペーサーとして使用する

ネジ部を基板の角の穴4カ所に差し込み、別のM3ナットで固定する。



C : 残りの2本のスペーサーをメインシャーシに取り付ける

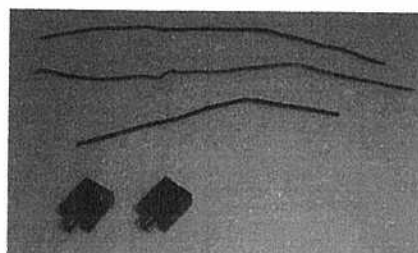


D : フロントパネル部品の準備

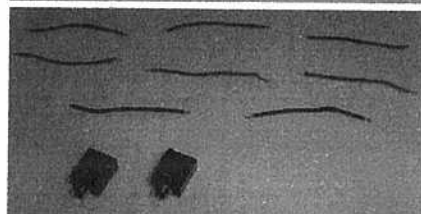
別紙A (部品表) 中央最上部の

AWG-22# 赤、青、黒の線を袋から取り出す。

また中央部下から2行目のJACK 6mmを2個取り出す。

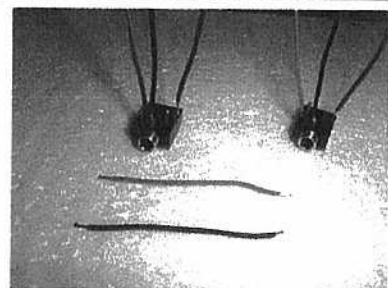
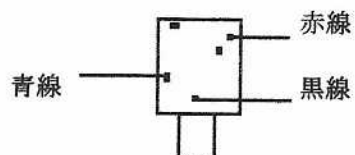


各線をそれぞれ次のように切断する。赤と青線は3等分、黒線は2等分 (長さは大体で結構です)



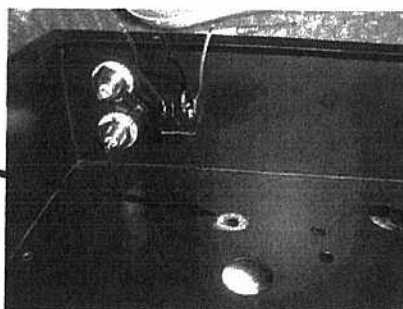
切断した線の両側の皮を3ミリ程度むいておく。

右図のように赤、青、黒線をジャックにハンダ付けする



F : メインシャーシの塗装を2カ所はがす

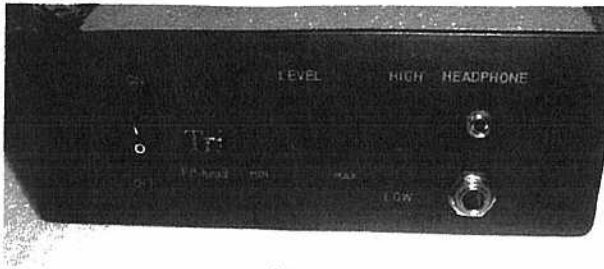
1カ所目はシャーシ上のラグ板の塗装を
マイナスドライバーなどではがします



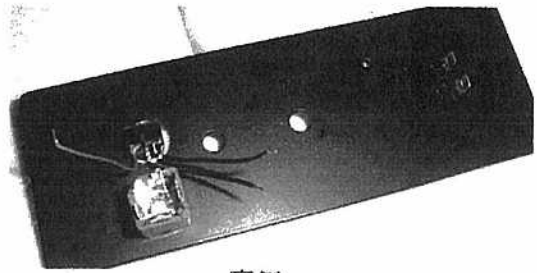
2カ所目はメインシャーシ前面側の内側の中央のメインボリュームが入る穴の周り3ミリ程度

4, フロントパネルに部品を取り付ける

フロントパネルに電源スイッチとヘッドフォンジャック及びミニジャックを取り付ける。

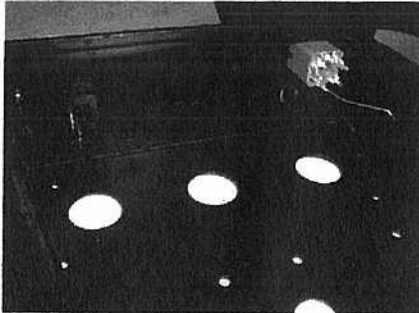


表側

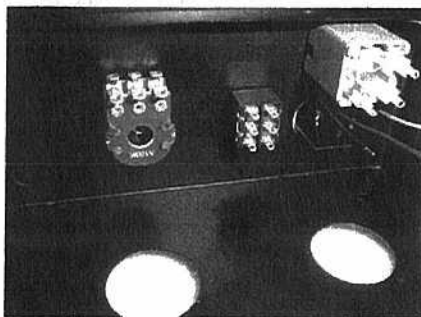


裏側

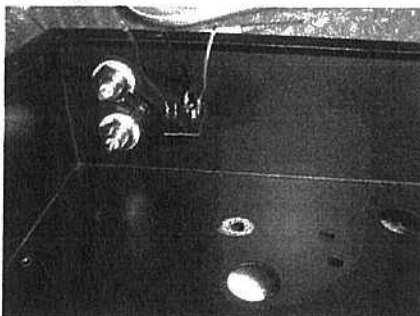
5, フロントパネルをメインシャーシに取り付ける



メインシャーシの前面側にフロントパネルを押し込む。



ボリュームとインピーダンス切り替えスイッチを取り付ける



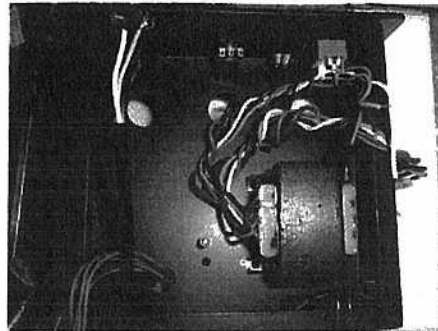
- 1, メインシャーシ後部にRCAターミナル取り付ける (赤、黒)
赤がRチャンネル、黒がLチャンネル
一度ナットを外し部品を外す。シャーシには次の順番で取り付ける。
シャーシ外側からRCA端子本体/白絶縁板/シャーシ/白絶縁板/ラグ板/ナットの順にシャーシを挟み込むように取り付ける。
- 2, RCAターミナルから前面ボリュームまでの配線を別紙Bを参考にしながら配線しておきます。(トランスを取り付けた後はスペースが狭いため)
- 3, フロントパネルにLEDを接着剤で接着する。

B, トランス類の取り付け

トランス類はワイヤーを取り出す方向が決まっております。
別紙Bを参照し方向を確認して下さい。

- 1, 電源トランスとアウトプットトランスをシャーシに取り付ける
取り付けナットはNUT-M3を使用
リード線の取り出し方向注意

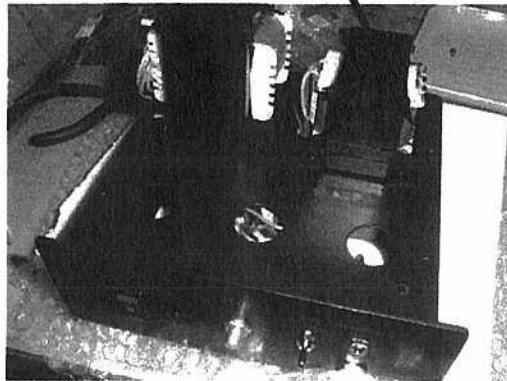
アウトプットトランスはシャーシ上下に取り付け
同じ穴に上下に3×8 T/MネジとNUT-M3を使用し固定する。リード線の取り出し方向注意
もしアウトプットトランスがトランスカバーに
当たる場合はリード線側を逆にひっくり返して取り付けてください。



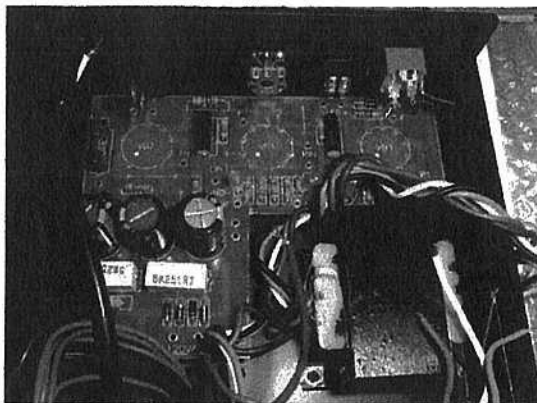
る。



アース用ターミナル（ラグ板）を先ほど
塗装をはがした穴にトランス固定ネジと共に取り付ける



プリント基板を取り付ける



- 5, 残りは配線のみです。間違えないように行います。別紙Bを参考にして進めてください。
- 6, 床板に足ゴムを取り付ける。
- 7, ボリュームツマミを取り付ける
- 8, シールド線の処理方法は2センチぐらい外皮を剥き、パラ線をよじます。
中心線（白線）の外皮を5ミリぐらい剥いて使用します。

完成テスト

- 1、完成テスト前に基板上のボリュームは一番左側に回しておきます。
- 2、A：全ての配線、部品位置に間違いがないか十分チェックします。
B：真空管をすべて差し込む。
C：プラグをコンセントに差し込み、いよいよ電源投入の瞬間、心の準備はよいですか？
誤配線の可能性があるのでスイッチオンの時は静かな場所がよいでしょう。
D：スイッチオンしたら、貴方の一世一代の五感を全部使ってアンプの中から変な音が出ないか、焦げるにおいがしてこないか、5分ほど注意深く観察します。もし異常があればすぐ電源スイッチをOFFにして原因を追究します。
E：このアンプは特に調整箇所はありません。
もし音が出ない場合はハンダ付けと部品の方向違いがないかよく確認してください。

ノイズについて

このアンプは真空管ドライブですので個々の真空管のバラツキによりノイズレベルが若干違います。また音色も各社の真空管のメーカーによって違いますので、聴き比べてご自分にあったものをチョイスすると良いでしょう。
もた本機に使用しているボリュームはそれほど高価ではないため回転時に多少のチリチリノイズが出るものがあります。ある程度の価格のものと交換すると良いでしょう。
規格は2連100kオーム Aカーブです。

使用方法

後部入力端子：RCA端子 プリアンプ/CD/MD/DVDなどのアナログ入力
ミニジャック

前部入力端子：ヘッドフォン端子
ミニジャック

ヘッドフォンインピーダンス切り替えスイッチ：LOW 15-50Ω HIGH: 50-500Ω

さてこれでやっと終わりになりました。

音楽ソースを入れる前にちょっとコーヒーブレイク...

コーヒーを飲みながら、大変だった配線を思い出して下さい。

“自分の作ったアンプから音が出る”こんな感動的なことは滅多にありません。

さあCDプレーヤーのプレーボタンを押してみてください。

その日はきっと長い夜になるでしょう。